

感染症に気をつけよう!

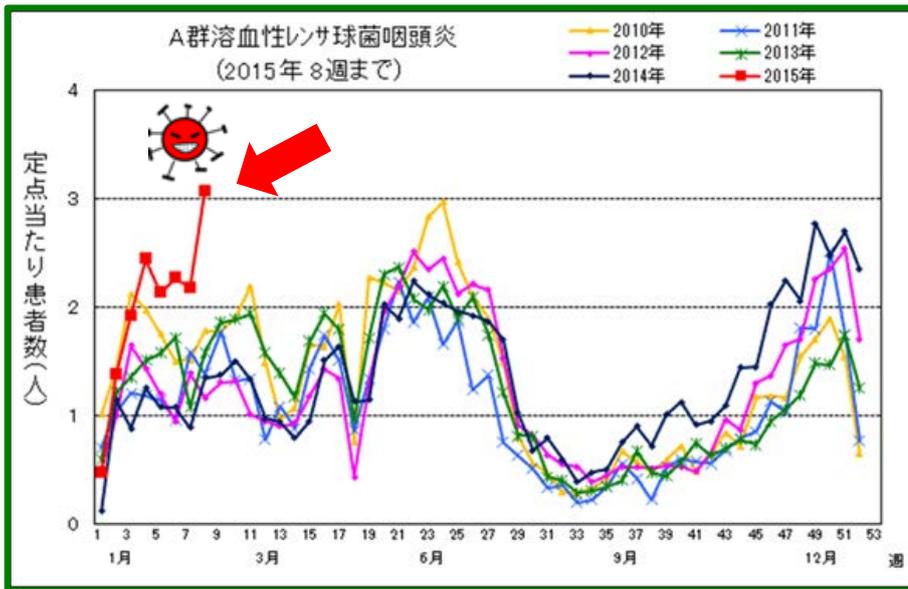
2015年【3月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明	【 】は解説付き既刊号	← クリック
インフルエンザ	 流行	 減少	昨年より6週早く警報解除レベルを下回りました。例年と違いシーズン後半でも、B型があまり増えていません。【2月号】		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	 やや流行	 やや増加	かぜに似ていますが、腎炎等の合併症もみられ抗生物質が必要になります。報告が増加していて注意が必要です。		

今、気をつけたい感染症 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



■ 例年、冬と春から初夏にかけて流行のピークがあり、幼稚園児から小学生で多く報告されます。今の流行は、この6年間で最も多くなっています。

■ 発熱とのどの痛みで始まり、吐き気がみられる例もあります。舌が赤くぶつぶつしてイチゴの様になります。



写真1. 典型的な莓舌

国立感染症研究所 HP より

■ 治療には抗生物質を使います。熱が下がり、のどの痛みがなくなっても、途中で服用を止めると、腎炎などの合併症を起こす場合があります。医師の指示通りに最後まで飲み切ることが大切です。

■ 患者ののどからの分泌物等に含まれている細菌によって感染するので、予防には患者との接触を避け、

手洗い・うがいをしっかり行いましょう。ワクチンはありません。



早目に医療機関を受診しましょう!

